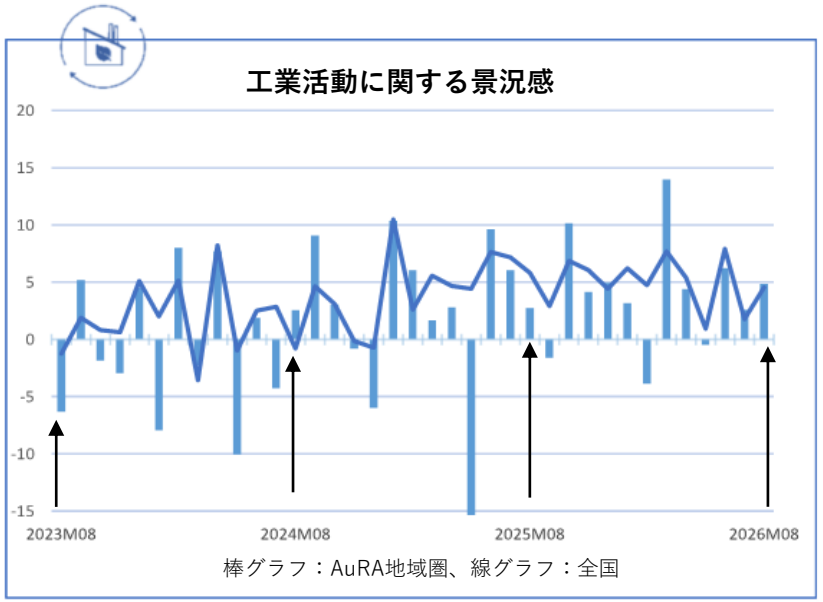
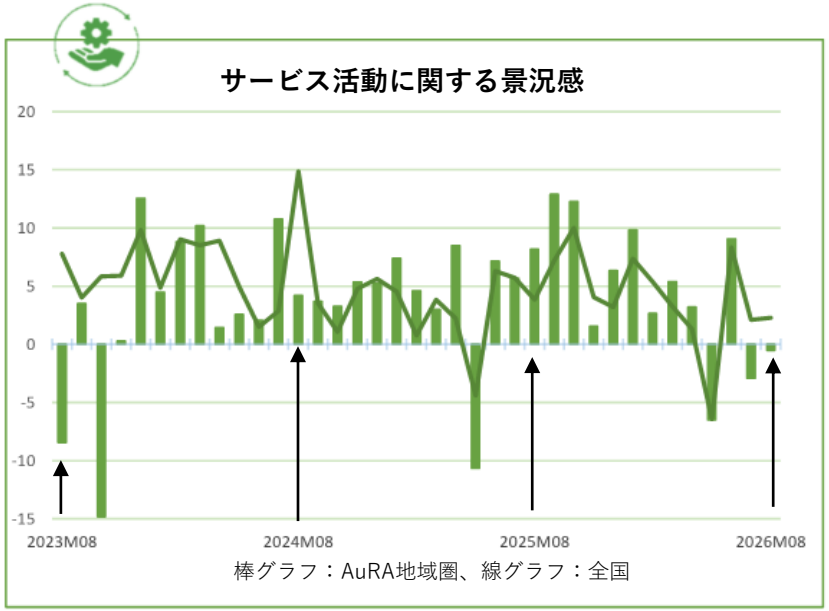
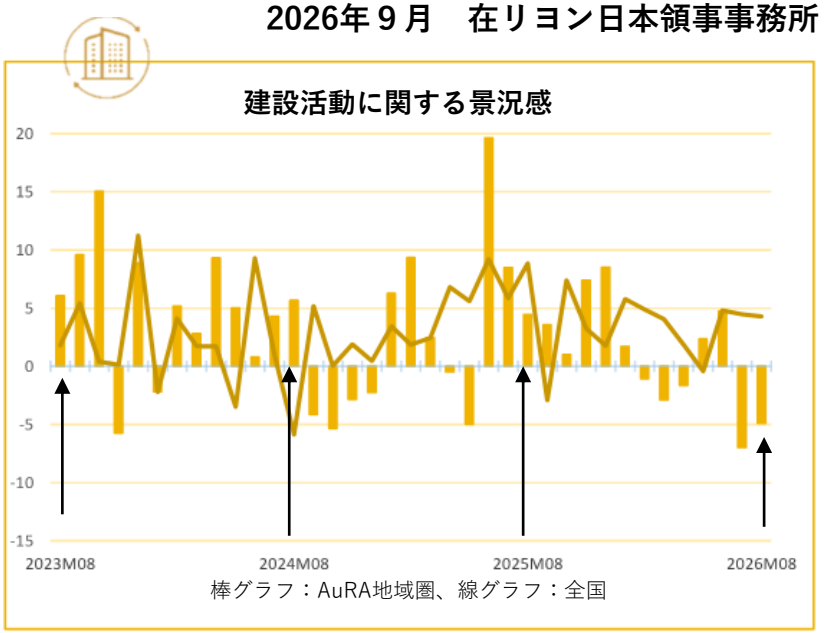
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年８月）

2026年９月　在リヨン日本領事事務所





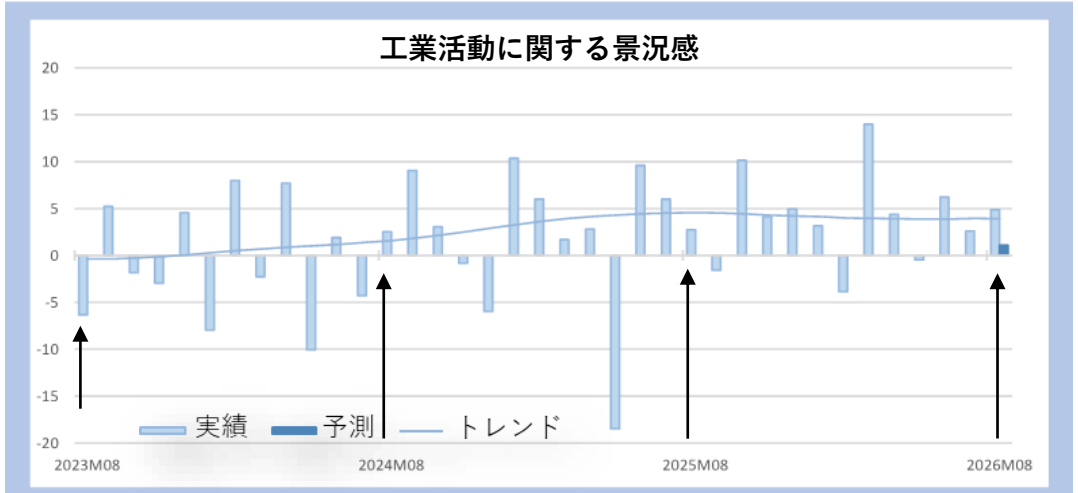


ポイント

- **工業部門**：AuRA地域圏の８月の景況感は、木材・紙・板紙及び電気機器セクターの力強い伸びに支えられ、全体として改善傾向が続いた。一方、一部のセクターでは、例年より長い夏季休業の影響もあり、伸びが大幅に鈍化した。価格は再び上昇したが、この上昇分の顧客への転嫁は部分的ににとどまった。海外需要に支えられ、受注残高はわずかに増加したが、国内の受注は低調なままだった。短期的には、多くの不確実要因を踏まえ、企業経営者は慎重な姿勢を維持しており、今後の事業活動は現状維持を見込んでいる。
- **サービス部門**：AuRA地域圏の景況感はほぼゼロ水準となったものの、外食、人材派遣、個人向けサービスにおける景況感は悪化した。全国レベルの景況感は引き続き改善した。サービス価格は主に燃料価格の上昇に伴う料金改定に牽引されて上昇を続けた。９月の事業活動はやや鈍化する見通し。
- **建設部門**：AuRA地域圏では、基礎工事でも内装工事でも景況感が悪化した一方、全国的には良好な水準を維持した。基礎工事では受注残は不十分とみられており、内装工事でも受注残は減少傾向にある。その結果、経営者は慎重な姿勢を示しており、今後数週間で事業量は縮小すると見込まれている。
- 資金繰りの状況は、製造業全体では概ね安定しているものの、金属、自動車、プラスチック製品製造の各セクターでは、状況が悪化していると報告されている。サービス業では、状況が全体的に悪化しており、特に飲食業やエンジニアリング・技術設計業務においてその傾向が顕著にみられる。

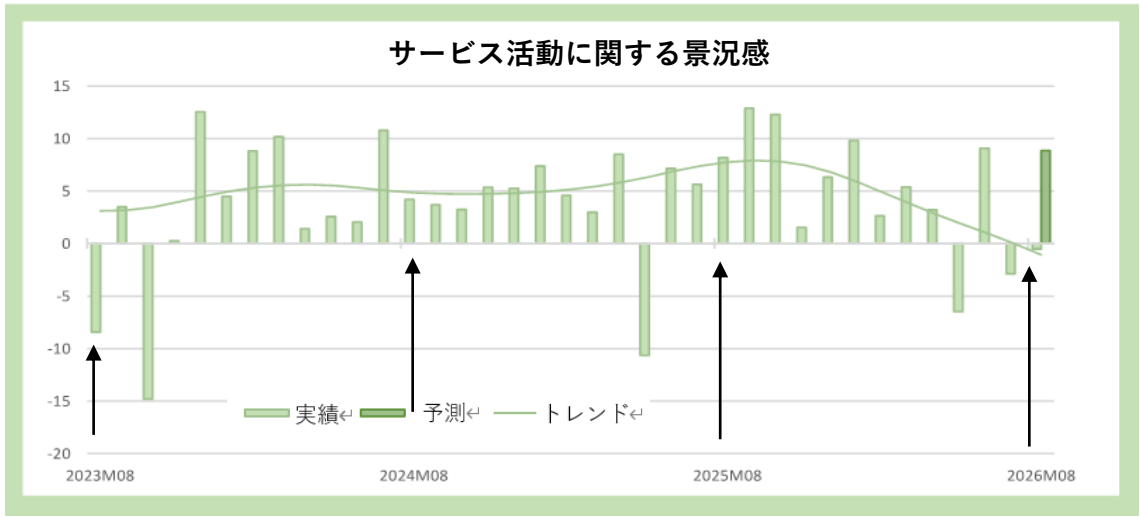
- フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年8月27日～9月3日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による７段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から＋200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes ）

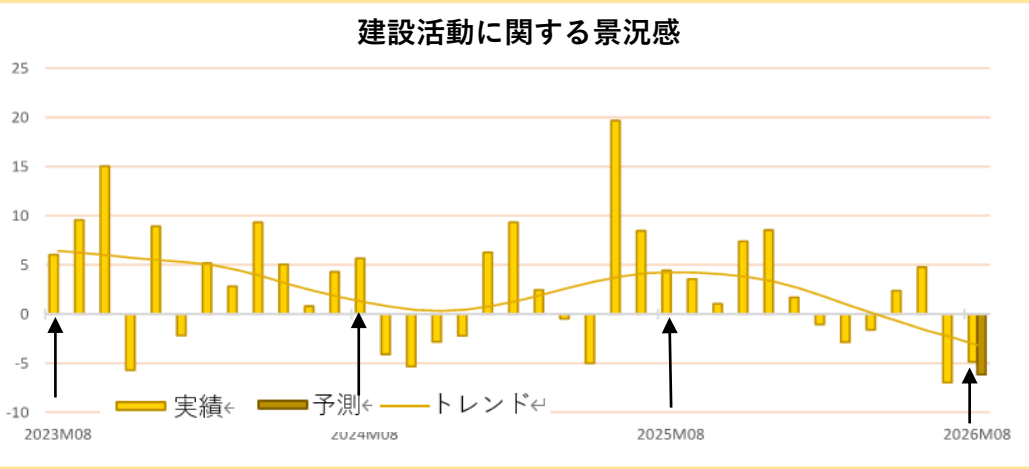
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年８月）
：実績、翌月の予測、トレンド



AuRA地域圏の８月の工業部門は、全体として引き続き増加したが、セクター毎に明暗が分かれた。金属、プラスチック製品、化学、製薬の各セクターは、例年より長い夏季休業の影響で景況感が悪化した一方、木材・紙・板紙及び電気機器の各セクターは堅調に改善した。原材料価格は上昇傾向を維持したが、上昇分は販売価格に完全には反映されなかった。雇用はほとんど変化なし。受注は輸出に支えられてわずかに増加したが、国内需要は低調なままだった。受注残高は概ね予想どおり。しかし、経営者は依然として慎重な姿勢を崩さず、今後数週間は現在の事業水準が維持されると見込んでいる。

サービス部門の景況感は、7月の落ち込みの後、８月はかろうじて持ちこたえた。この裏にはセクター毎のばらつきが隠されている。貨物道路輸送やIT関連事業は特に改善がみられた一方で、外食産業、人材派遣、個人向けサービスでは悪化した。販売価格は、主に燃料価格の上昇に伴う料金改定により上昇。雇用はわずかに増加した。短期的には、企業経営者は事業活動が活発化すると見込んでいる。





８月の建設部門の景況感は、基礎工事と内装工事の双方で悪化した。基礎工事では競争圧力により見積価格が下落傾向を維持した一方、内装工事では春以降に生じている資材コストの上昇の一部を転嫁するため、価格は緩やかに引き上げられた。受注残は縮小しており、基礎工事では不十分とみなされ、内装工事では不足気味となっている。その結果、今後数週間は事業量が減少すると見込まれる。